

令和4年度 周南市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和5年3月22日（水） 開 会：13時00分
閉 会：14時19分
- 2 場 所 周南市岐山通1丁目1番地
周南市役所 庁議室
- 3 出席委員 藤井律子市長 厚東和彦教育長 松田福美委員 片山研治委員
岡寺政幸委員 吉本妙子委員
- 4 事務局 企画部長 企画部次長（企画課長） 地域振興部長 教育部長
教育部次長（教育政策課長） 文化スポーツ課長 人権教育課長
学校教育課長 学校給食課長 中央図書館長
文化スポーツ課課長補佐 生涯学習課課長補佐
学校教育課課長補佐 学校教育課指導主事
- 5 書 記 教育政策課（担当課長補佐。主査）
- 6 協議事項

●事務局（部長）

ただ今から「令和4年度 周南市総合教育会議」を開催いたします。

はじめに会議の主催者であります市長から開会にあたりまして挨拶をお願いいたします。

●市長

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、また年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また皆様方には、常日頃から本市教育の充実、発展のために、お力添えをいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、今年度は新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波に対応しながら、これまで中止となっておりました学校行事が再開されたり、規模が拡大されるなど、少しずつ以前の日常を取り戻しつつあるそんな一年であったかと思えます。

一方で、今回の議題でもあります「学校部活動の地域移行」への検討が本格的にはじまるなど教育をとりまく状況は変化し続けております。

こうした変化の中にあっても未来（あす）に向かって生きていく子供たちを学校・家庭・地域・行政の緊密な連携のもと慈しみ育てていくことが重要であり、この取組こそが、未来を担う子供たちが心豊かにたくましく生きていくための「生き抜く力」を育むことにつながる、と確信しているところでございます。

さて、平成27年度にはじまりましたこの「総合教育会議」において、広範な教育行政について皆様と議論を重ねることで「生き抜く力」を育むことに向けての効果的な施策の実現につながっていると考えております。

本日の会議は「来年度における教育行政の重点施策の取組」と「学校部活動の地域移行」の2つの議題につきまして、活発な協議をお願いするものでございます。

どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

●事務局（部長）

会議に先立ちまして、配布しております資料の確認をお願いいたします。A4タテの会議次第、議題1の「令和5年度 教育委員会の重点施策について」のA4ヨコの資料、それと議題2の「学校部活動の地域移行について」の関係の資料、これが4冊あると思いますので、よろしいでしょうか。

それでは、これからの議事の進行につきましては、周南市総合教育会議設置要綱の規定によりまして市長が行うこととなっておりますので、市長よろしくお願いいたします。

●市長

それでは、早速次第に沿って進めさせていただきます。

まず、協議の1番「令和5年度 教育委員会の重点施策について」についてでございます。これにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局（部長）

それでは、資料「令和5年度 教育委員会の重点施策について」をご説明いたします。

本市が今後も活力と品格のあるまちであり続けるためには、市全体で人口減少を少しでも鈍化させ、地域、経済の萎縮を抑え、選ばれ、住み続けられるまちづくりを根気強く勇気をもって進めていくことが何よりも必要となります。その中で、教育委員会が果たすべき役割は、将来のまちづくりの推進役を担う人材を育成するとともに、人材育成の場である学校や地域社会の教育環境の充実を図ることだと考えております。

そこで、教育大綱に掲げた理念の実現を目指しながら「本市の未来を担う人材を育成すること」を教育行政を進めるにあたっての心がけとし、学校教育や社会教育におけるハード、ソフト両面の充実を目指す各事業の着実な実施に向けまして、関係部局と連携しながら教育委員会全体で取り組んでまいりたいと考えております。

それではさきほどの資料で、令和5年度における重点施策につきましては、1ページから4ページに掲載しております15事業でございます。それから、5ページからは15事業のうち教育委員会事務局の各課がより重要と考える事業につきまして、5ページから7ページに小・中学校改修事業、8ページに学校・家庭・地域の連携協力推進事業、9ページから10ページに人権教育講座運営事業、11ページに教員業務支援員配置事業、12ページに学校給食管理

運営事業、13ページから14ページに図書館管理運営事業について詳しい資料を掲載しております。それぞれの詳細につきましては、この度しっかり協議の時間をつくりたいと思っておりますので、省略をさせていただきますが、不明な点がございましたら後ほどご質問いただけたらと思っております。

令和5年度につきましては、これまで取り組んでまいりました事業の充実を目標に、引き続き関係部署や関係機関等との調整を図りながら、長期的な視野に立って計画的に事業を進めてまいりたいと考えておりますので、ご意見をよろしくお願いいたします。

●市長

このままでいいですか。分かりました。

ただいまの説明を受けまして、それでは令和5年度の教育委員会の重点施策につきまして、資料もご覧いただきながら、皆様方のご意見をお伺いしたいと思えます。

早速ではございますが、何かご意見がございますか。

●松田委員

これまでの定例会等でも方針等を伺いながら、事業の充実、それぞれの今まで取り組んできたものを充実させるという方針で、確かに学校というところ、それから社会教育においても確実に行っていかなければいけないところがあると思えますので、今まで取り組んできたものをそれぞれ充実させていくことも大事だと思えますし、新たにこれをやってほしいということもあると思えます。皆様のご意見もあると思えます。

私が重点施策を見たときに、3ページの学校教育課のところ、昨年の会でも大変ありがたいと申し上げた学校・家庭支援専門家配置事業です。この中でスクールソーシャルワーカーを市として1名配置していただきました。そのことに大変期待をしているということをお話したのですが、先般状況をお伺いしましたら、これまでの事業では、県の配置職員の時間数で対応が十分でないところを市の配置職員1名のおかげで、今まで保留となり対応できていなかった状況から少し進んだということをお伺い、大変ありがたく思っています。

やはり子供たち一人一人の状況はとても違いますので、その中で今不登校とか、それから、家庭の中に入っていくという学校ではなかなか難しいところ、そこに専門家が入ってサポートしていただけることで、子供たち一人一人への対応が進んでいるかということを感じております。この事業を是非継続していただきながら、そしてやはりそうは言っても、窓口のところはできたのですが、その後いろいろな関係機関につないでいくとか、例えば民生委員さんとか保健師さんとか、そういう方々と協力しないと、どうしても学校という入り口だけで家庭の中までというのが難しい状況であるし、逆にそのような市全体で対応していただくことによって、これまで狭いところで悩んでいたものが解決する

のではないかなという期待を持ってますので、やはりそういういろいろな方との連携を強化していただけたらいいなと思っております。

また、学校という中ではどうしても相談できる先生も限られますので、今後期待するのは、現に教員業務支援員配置事業というのがありまして、これも周南市では十分に手厚く、それぞれに配置していただいているところですが、これまでの教員の業務支援ではなく、子供たちの相談になれるような、ちょっとした悩みを聞けるような、昔で言えば保健室の先生とかが聞いていたような悩みをどなたかが聞けるようなそんな温かい場があってもいいかなと思っております。これは今すぐということにはならないと思いますが、先ほど申しましたスクールカウンセラーにつきましては、継続していただけるとということもありがたいなと思っております。

●市長

いいですかね。はい。

何かそちらからあれば一言お返しいただけませんか。

●学校教育課長

まずスクールソーシャルワーカーにつきましては、県の補助事業で既に6名配置されておりました。それが今年度から市独自で1名、来年度も1名という配置になっています。スクールカウンセラーにつきましては、6名でございますけれども、こちらについては、兼務も含めてですが各中学校区で配置されておりますので、先ほど委員おっしゃられたように常時スクールカウンセラーが学校にいる状況ではございません。そういう意味では、委員がおっしゃられたように日常的に相談できる相手という意味ではまだまだ十分ではないのかなということは思っています。気軽にご相談できる方が是非いらっしゃればありがたいなと思っております。

●市長

はい。ありがとうございます。よろしいですか。

●松田委員

はい。

●市長

相談できる温かい場というのがとても心に響きました。ありがとうございます。片山委員お願いします。

●片山委員

5年度についても、前年度に引き続き、いろいろ学校の校舎の中の環境整備

というか、例えばトイレの改修とか壁の補修とかそういったものについては、本当に予算をきちんと順序立ててつけていただいで大変ありがたく思っています。また校庭内にある遊具についても調査をしていただき、それから改修と。子供の体力についてはですね、そういったものの充実というのは大変必要などころがあると思いますので、そういうところにも予算づけをしていただいで大変ありがたく思っております。

はい。それからですね、GIGA スクールのICTについては、先日吉本委員の方から情報がありましたけど、全国でICTの活用は山口県が東京都を抜いて堂々の1位だったということで、知事が大変喜ばれていました。

そういった中でも、周南市の取組が多く生かされてるところがあると思います。ICT教育アドバイザー2名を配置していただいで、私も学校訪問のときにiPadを活用して、そういう情報機器を十分活用した子供たちが、授業の中で生かしてそれを使っているという姿を見て素晴らしいなと感じております。

これから先、それをどのように進めていくかということもあるし、子供たちの中にも、個別的というかですね、やっぱりそういう差が出てくるところが当然あると思うので、そういったところは、教育アドバイザーの方にもアドバイスを聞きながら、そのレベルに合わせた活用の仕方っていうのを今後していただくと、これは学校の時代だけじゃなくて今から社会に出ていろんなところでそういう機器を活用するっていう当然必要性が出てくると思うので、できるだけレベルに合わせるというかそういうふうなところで力をつけて、先ほどもありましたけど、生き抜く力の中にICTの活用ということも必要がでてくるのではないかなと感じています。

それと八代の鶴ですけども、今年はたしか13羽だったですかね。去年は27羽で今年はちょっと少なかったのですが、以前藤井市長さんも一緒に、出水から来られた方と会合をしたことがあり、出水は何万羽、周南の八代の鶴は今年は13羽ですけれども、その13羽というのは、その貴重性からすれば出水の何万羽にも匹敵するようになるようなものだ、出水の方も言われていました。

例えば出水に来ている鶴に病気がおこり大変なことになった場合でも八代には鶴がきているとなると、大変貴重になってくるわけですね。だからそういったことも、是非市民の方々に知っていただくことが大切じゃないかなという考えです。以上です。

●市長

ありがとうございました。片山委員の意見に何かお答えございますか。

●学校教育課長

委員がおっしゃられたように子供たちが本当によく使っていると思いますけれども、私たちが目指しているのはICTが鉛筆や消しゴムのように文房具になるということです。使うことが目的ではなくて、それを使うことによって何

を学んでいくか、どのような学び方を身につけていくか、そういったところであらうというふうには考えています。そういった視点での授業作り、そういったところもICTのアドバイザーがしっかり指導していただけるとありがたいなという思いで日々業務をまわしているところであります。以上です。

●片山委員

はい。ありがとうございます。

●市長

鶴は担当がきていらっしゃいますか。

●生涯学習課課長補佐

周南市八代は本州唯一の鶴の渡来地ということでございます。委員が言われますとおり、市民の方にも積極的にしっかりと鶴について情報発信をしていきたいと今後も考えているところです。

●市長

はい。ありがとうございました。

次に岡寺委員お願いします。

●岡寺委員

私も教育委員に関わらせていただいて3年になりました。その割には役に立ってないじゃないかと反省しておりますけれども、こういう事例を見せていただいたり、活動や事業の概要についてご説明いただくと、いろんなことに教育委員会は力を注いでいらっしゃるということがよく分かります。

私は親代表の立場として、こういったことをされていることをつくづくありがたいと感謝している次第です。こういった予算を立てていただいて、見れば見るほど、もっともっとアピールしていただきたい。毎回話していますけど、是非是非このぐらいかかっているぞっていうのを伝えていただいて、ありがたいというのを、子供たちによく感謝しなさいと親は言いますが、親も感謝しないといけないと私は思っています。

今ですね、委員が言われたようにいろいろなことに関わっていらっしゃいますけれども、その中でも少子高齢化は地域で活動しているとひしひしと感じます。学校教育もすごく変わってきている。ところが頭の中は、前のかたちからなかなか変わらないんですよ。例えば一クラスの数にしても、補助の先生は基本つかず、私も時々学校をのぞくと、先生方は大変だなんていうのが私の感想です。たまに地域の方として発表やプレゼンしてほしいと言われてやると、みんな聞いているのっていうぐらい。30人ぐらいいると端の人は寝ているんじゃないかなと。先生は本当に大変だと実感することが多いです。そういった

意味では先生をもっと増やしていただきたいなっていうのも思っていますし、教育の質を上げていくためには、やはりまだまだやるべきことはたくさんあるのではないかなということも感じています。

先ほど教育は人づくり、まちや未来をつくる人材を作り上げ、このまちをつくる基礎になると私も受けとめています。なのでものすごく大事なことです。地域で活動していると、ふるさとづくりと私たちよく言うのですが、子供たちにも良いまちだよっていうのをしっかりアピールしているんです。そういう意味で、教育っていうのが基礎をなすと思います。周南市には大学がありますので、是非このアカデミックな、教育に関しては言えば、先端を走るようなまちになれたらなというふうに願っています。

部活動改革推進事業でありますけれども、そういうところでもこれは後でまた次の議題に出るので、ここではさらっと言いますが、ここでも言えることはやはり人が足りない。教育の質を上げるというために私はとても大事なことです。親としてすごく悲しいのは、先生方がブラックな仕事だと言われて、先生のなり手が少なくなっているという話を聞くことです。そうじゃないはずだ。ものすごく志の高い仕事だ。そこにはいろんな優秀な人たちが集まってきてほしい。そういった場所をつくるためには、予算もありますけど、環境も私はあると思います。私は一保護者ということで意見を言わせていただきました。是非新しい教育のスタイルを目指していろんなものに取り組んでいただけたらと。

学校の解放という意味で言えば、学校施設って地域にとってはすごく使いづらいんですよ。やはりセキュリティの問題もあります。もっとフレキシブルに使えるような場所になれば地域も入っていけるだろうし、それこそクラブの改革で言えば、地域の人たちが学校で教えたりすることもできるようになるのであれば、この仕組み自体を変えないとなかなか入っていけないということも聞いたりしています。そういった意味でもまだまだ改革する部分もたくさんあるので、大変だと思いますが是非よろしく願いたいと思います。

●市長

ありがとうございました。幅広いですけどもどなたか答えられる方いますか。

●教育部長

学校について申し上げますと、これまでの学校施設の在り方を取っ払いながら進めていかないとなかなか部活動の地域移行というのは難しいのかなと。確かにハードルは非常に高い気はするのですが、どうすればできるかという視点でいろんなことを進めていきたいと思っております。学校だけでなく、社会教育においても様々な世代がいろんな活動を生涯にわたって進めていくために教育委員会としてしっかりできることを進めていかないといけないと思っております。

●市長

いいですか。

●岡寺委員

はい。

●市長

では吉本委員よろしく願いいたします。

●吉本委員

まだまだ新米で勉強をしているところです。私もこのような大変な役をやらせていただいて、本当に学ぶことがたくさんあって、教育委員会というと堅苦しくて、教育に携わっている方以外はあまり関係ないんじゃないかと。保護者も卒業して長いもので、そのようにずっと考えていましたけれども、そういうことではなくて、本当に地域の子供たちをどのように育てていくか、生き抜く力をどのようにつけさせるかということで、こういう言い方は大変失礼なのですが、真剣に取り組んでいらっしゃるといふのを本当に目の当たりにしてきたこの1年半というかですね、本当に学ばせていただいているなというふうに思っています。

細かいお話は、皆さんおっしゃっていただいたとおりで、スクールソーシャルワーカーがもうちょっと増えれば、家庭面のところをスクールカウンセラーの皆さんと先生方と一緒にカバーできるのではないかなと。

ICTに関しましても、せっかく周南公立大学ができましたし、新しい学部ができますので、連携されると伺っているんですけども、あのあたりがですね、さらに連携して、周南公立大学があるから、周南市の小学生はICTに強いんだと。先生方もですねアドバイザーが2人いらっしゃるといふことですがけれども、是非先生方が周南公立大学に学びに行って、ハイクラスなプログラミングなどを勉強するチャンスがあると、さらに強い学力が身につくのではないかと考えています。

また、このように、子供を育てるために学校・教育委員会・地域の皆さんがいろいろなことに取り組んでいるということをお子たち本人がまずあまり知らないのではないかと考えていますし、当然保護者教育は必要だと思っておりますけど、保護者卒業生で、本当にできの悪い保護者だったなというふうに思っていますので、そのあたりをお示しすることに力を入れていって、子供たちが大事に思われているんだ、育てられているんだということをもう少し理解させることも必要ではないかと思いました。以上です。

●市長

はい。ありがとうございました。前半の大学との関係とかは。

●企画部長

ちょっと教育の観点から大学を語ることは難しいですが、大学と連携するという観点から少しお話をさせていただきたいと思います。

周南公立大学の大きな目的の一つに地域人材循環構造というのがございまして、周南市で生まれて、周南市で育って、周南の大学に入って、周南に勤めて、周南で結婚して、周南で子供を産むというそこがぐるぐる回っていくというのが一つの大きな目的でございます。

この中で、大学の方は、地域貢献型大学というのを目標に掲げておりまして、当然、教育についても側について力を入れているという状況でございます。公立大学になりまして市民向けの講座というのが非常に増えているわけでございます。いろいろな講座をやっている中で、先日も高校生のDXについて行ったところでございます。小中高大連携というのを目指しておりまして、大学に来てもらうためには小学校から周南公立大学の良いところを知ってもらうことに努めているところでございます。

これからの教育において、大学の知の力を使うということがあります。もう一つ若い力を使って一緒になってやっていくこともあろうかと思えます。そういったところも大学の連携室でしっかり支援していきたいと考えております。以上です。

●市長

はい。ありがとうございました。

●教育部長

部活動の地域移行について話をするとき、周南公立大学の前身徳山大学のときから、大学として何ができるかということと一緒に考えておりました。公立大学になってからも協議会を立ち上げまして、大学の担う部分、大学として何ができるかということを引き続きいろいろと考えていただいているところであります。

それと、子供及び保護者へのPRの部分については、新年度に校長会等で教育委員会のその年度の事業について説明しているところです。しかしながら子供たちにさらに周知できるようにいろいろな方向を考えないといけないのかなと思っております。

●市長

はい。ありがとうございました。はい、どうぞ。

●松田委員

先ほどトップバッターでしたので、もう少しお願いというかお話をさせていただきます。施策・事業について行っていただいているところですが、教育政策

課の改修事業について、照明の LED 化に取り組むというところですが、年度で 1 校ずつという計画について、子供たちの環境という意味ではもう少し早めに全校 LED 化できればよいなと思いました。

空調設備については、周南市頑張ってください、普通教室には全部設置いただいているのですが、特別教室の課題が残っています。普通教室のメンテナンスもあると思いますが、特別教室の設置もお願いしたいと思っております。理由については、特別教室は授業でよく使用するためです。

それから、最近、学校教育、社会教育、生涯学習、子供たちを育てるための人材育成、生涯学習課は市民の資質向上等大変大きな課題を持ってやっている訳ですが、学校・家庭・地域の連携協力推進事業についても、保護者・地域と繋がったりするために、いろいろと方策を練っておられますが、どういう成果を上げていくか重視して、力を入れていく必要があると思いました。

それから人権教育課で、地域における人権教育の推進ということで、いろいろな取組をされ、風土を作る基になっているのではないかと考えています。聞くところによると、新規参加者も多いということで、幅が広がっているということを知っていますので、質を高め、多くの方が人権教育に関心を持ち、心豊かな人の育ちかみられるとよいかと思います。

併せて、図書館も知をつくるところで、新しい取組をたくさんされて、コンテストも実施され、いろんな方が参加できる場所ですが、周南市の文化資料をみるときに、図書館は大変参考になると思い、取組を楽しみにしながらみさせていただいているところであります。

●市長

はい。ありがとうございます。どなたか、はい、どうぞ。

●教育部次長（教育政策課長）

学校施設の整備について、ご意見いただきましてありがとうございます。

LED 化それから空調設備について具体的なお話をいただきましたけれども、LED 化については、脱炭素や省エネルギーという考え方も踏まえて、積極的に進めていくという方向、また、切実な問題としては LED 以外の機器は製造終了してしまうことも踏まえて、現状小・中学校 1 校ずつですが、今後取組を加速していく必要があると現場としても思っています。

それから、令和 2 年度までに普通教室の空調を整備いたしました。特別教室の空調につきましては、学校現場からの要望もいただいておりますので、今調査をしているところでございます。その結果を踏まえて、また必要に応じて対応していきたいと考えています。

●教育部長

生涯学習の学校・家庭・地域の連携の部分ですが、コロナ禍で活動機会が少

なくなっておりました。しかしながら、5月に政府の方針も変わりますので、今後は活動が活発化してくように教育委員会としてしっかり支援していきたいと思っています。

それと、人権教育については、これまで進めてきました講座や地域の活動については、しっかりコンスタントに進めていきたいと思っています。その中で新規参加者が増えるようしっかり力を入れていく必要があると考えています。最後に図書館ですが、資料収集については充実させていく必要があると考え、予算もしっかりとっております。その中で、新たに電子図書館についても資料の充実努めてまいりたいと思います。

●市長

はい。あとは皆さんよろしいですか。

大変貴重なご意見をたくさんありがとうございました。

本日いただきました、様々な視点からのご意見を参考にさせていただき、今後も、一層実効性のある事業進展に、取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは次の協議事項に入ります。協議の2番、「学校部活動の地域移行による新たな環境としての『周南市文化・スポーツ活動』について」でございます。

事務局から、説明をお願いします。

●事務局（部長）

それでは、「学校部活動の地域移行について」について、現在、教育委員会と地域振興部が中心となって、学校部活動の地域移行について協議を進めております。この協議の内容や今後の取組などにつきまして、学校教育課よりご説明させていただきます。

●学校教育課長

学校教育課の原田でございます。

現在、教育委員会と地域振興部が連携して進めております、学校部活動の地域移行についてご説明いたします。

国においては少子化が進む中、将来にわたり子供たちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するために「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識のもと、子供たちの望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備することを進めております。

そこで、周南市においては、こうした環境のもとで行われる子供たちの活動を、表題にあります「周南市文化・スポーツ活動」と称し、教育委員会と地域振興部が協議しながら、その体制づくりを進めております。

また、この取組に対して、様々な立場から市民の皆様にご意見をいただく場

として、右側の写真にございますけど「周南市文化・スポーツ活動推進協議会」を設置し、これまでに3回の協議を重ねてまいりました。

「周南市文化・スポーツ活動」とは、部活動という概念を一切払拭した活動であります。現状のように、毎日放課後に、学校で活動することを前提としておりません。周南市内の中学生の「やってみたい」に応える多様な活動であり、学校部活動のような、中学生同士の活動だけではなく、多様な文化・スポーツ活動に、多様な地域で、多様な世代、また、障害のある方々も含め、多様な人とともに参加できる活動を想定しております。

つまり、現在、周南市内13中学校において、学校単位で行われている学校部活動ではなく、子供たちが周南市全域から、活動内容や目的、活動場所、活動時間、活動の頻度などを選び、主体的に取り組む活動を想定しております。

そうしたことから、この地図上にありますように、同じ種目・種類の文化・スポーツ活動であっても、様々な地域で行われることも想定しております。

先ほどご説明しました「周南市文化・スポーツ活動推進協議会」では、こうした市の方針も含め、①令和8年度からの地域移行、③平日、休日を一体とした地域移行に向け、④運営主体となる事務局を設置した仕組みづくりを行うことを共通認識事項としてご協議いただいております。

「周南市文化・スポーツ活動推進協議会」において、これまでに協議された課題は、このような内容となっております。まだまだ多くの検討事項がございますので、子供たちの「やってみたい」に応えられる環境づくりのためには、取組の加速化が求められます。

現時点で想定しているスケジュールは、このようになっております。教育委員会や地域振興部、また運営主体となる事務局が取り組む内容を整理しているところでございます。

また、地域移行後の体制イメージは、このようになっております。この図で申し上げますと、左上「周南市」と示されているところが、現在教育委員会と地域振興部が担っているところであり、運営事務局として、仮称ではありますが、「周南市スポーツ活動推進センター」と「周南市文化芸術推進センター」に業務を委託し、「周南市文化・スポーツ活動」を実施していくこととなります。

現在、教育委員会と地域振興部、また、運営事務局の委託を検討している関係機関とは、情報を共有しながら進めておりますが、この地域移行は、全市的な取組であり、先ほども触れましたが、令和8年度までの3年間で体制づくりを進める必要がございます。そこで、移行を加速化させるためには、教育委員会と地域振興部が担っている事務局と、運営主体となる運営事務局の機能強化が必要と考えております。

事務局の強化について補足いたしますと、今後、地域指導者の確保、運営費用の確保のためには、地元企業のご理解とご協力が必要となります。また、例えば、子供たちが「やってみたい」と思う活動には、ボランティアなども含まれております。さらには、学校部活動とは全く異なる環境構築について、広く

市民の皆様にご理解いただく必要もございます。そこで、点線囲みでお示ししておりますように、市長部局との連携強化が必要と考えております。

運営主体となる運営事務局につきましては、人材バンクや指導者研修制度の創設など、前例のない新規の取組が多くなることが想定されます。また、地域間の格差を埋めるためには、事務局主導で新規の活動団体を創設する必要も出てまいります。そこで、こうした業務を行うための機能強化、そのための市からの補助も必要となると考えております。

教育委員会といたしましては、子供たちの望ましい成長のためには、周南市全体、様々な団体や機関、さらには市民の皆様のお力でこの仕組みを支えていただくことが欠かせないと考えております。

事務局、そして、運営事務局の機能を強化し、学校部活動から「周南市文化・スポーツ活動」への移行を一層進めていきたいと考えております。以上でございます。

●市長

はい。ありがとうございました。

ここで教育長から何か補足はありましたらお願いいたします。

●教育長

はい。今説明がありましたように、学校部活動の地域移行に向けたスケジュール、手順あるいは目指す姿、それを実現するためにクリアしなければならない課題等につきましてはですね、スライドで見ていただいたとおりでございます。この件、ご存知かと思えますけど市議会でも取り上げていただいております。先日開催した第3回の推進協議会ではですね、7名の議員の方に傍聴に来ていただいております。大変関心の高さを感じています。

現在、教育委員会とそれから地域振興部の方が中心となって、この協議を進めているところですが、今後、地域移行の輪というのを広げていく予定にしています。市役所全庁的なご協力をお願いしたいというふうに考えています。今日、WBCで優勝したように、12球団全てから良い選手が集まったように、全庁全ての部局からご協力いただくとありがたいかなというふうに思っております。

それから加えて、市職員の方々の中には、ご自身が文化芸術やスポーツ活動に実際に取り組みされている方とか、あるいは指導的立場としてノウハウをお持ちの方もたくさんおられると思います。先ほど企業というお話がありましたけれども、そういった方々に指導者としてご協力をいただくというような、市役所の体制作りといいますか、あるいは兼職兼業ということも教員の中にはあるのですが、そういったものも含めて市のサービス関係の整備も考えていただけるといいのかなと思っております。

私の個人的な意見で後ろに座っている職員にまだ何もいっておりませんが、

全庁的な協力や市役所職員の参画もイメージしていただいて、ご意見いただけるとありがたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

●市長

はい。ありがとうございます。続いて地域振興部から何か補足がありましたらお願いいたします。

●地域振興部長

地域振興部の末永と申します。

地域振興部としてもこれまでも教育委員会と協力しながら、推進協議会を進めさせていただいております。令和8年度から新たな中学生の文化とスポーツの活動の場を確保しないといけないということが大前提だと思います。これから3年間で準備を進めていきますが、令和8年度から周南市全域で平日・休日ともに移行ということで、広報や多くの人に周知していくことも地域振興部としてやっていかなければならないと思っております。中学校の部活動が地域に移行するということは大改革だと思います。地域振興部だけではできないと思っておりますので、企業・保護者の方・学校・行政それぞれの立場で協力しながら進めていきたいと思っております。中学生がやりたいスポーツ種目・芸術活動が提供できるようにしっかり考えていきたいと思っております。以上です。

●市長

はい。いいですか。ありがとうございました。

今の説明を聞かれて、今日は限られた時間ではございますけど、皆様が日頃から考えていらっしゃることに、率直なご意見、感想などをお聞かせいただきたいと思っております。

特に、説明にもありました「周南市文化・スポーツ活動への移行を加速させる」ためのご意見などをいただければと考えております。

どなたからでも構いませんので、発言をお願いいたします。

●松田委員

部活動という言い方をすれば、これまでの学校教育の中でというイメージが固定化してしまっていて、地域クラブ活動という考え方になると、私は大賛成です。

なぜかと言いますと、学校によって部活動の数が違います。数が少ない学校においては選択肢がないということで、子供たちにとって選択肢を増やす。それから、例えば柔道やハンドボールは市内に2校しかない。他の学校にもやりたい子はいるのではないかと思います。その状況の中で、部活動が地域クラブ活動に移行するということが出てきたときに、すごい大きな改革ですが、私としては待ち望んでおりました。

そして、周南市が積極的に取り組むという話を聞いて、課題はたくさんある

が、これから子供たちが自分がやりたいことをやっていける環境を市が作っていくことは、地域にとっても周南市が先立って行うことで夢を与えられるのではないかと思う次第です。

文化スポーツ活動を市全体で見直していただいて、子供たちが成人になっても続けていくというふうに、地域が受け皿になり、活躍できる、人のつながりができるということはとても良いと思っています。

●市長

ありがとうございました。どうぞ。

●岡寺委員

文化スポーツ活動で言えば、私は地域で活動している手前、いろんな方から話を聞く事があり、この人を押さえておかないと後で揉めると感じることもあり、そういった事も踏まえて、本当に大変な改革だと思いますが、きめ細やかに進めていただけたらなと思っています。すごく期待しています。

地域移行により、先生方は教育に専念でき、良き人材が集まってくる。子供たちはやりたいことに専念して、専門家ではない教員が顧問になることもなくなり、専門家による指導を受けることができ、良き指導者にも出会え、競技を極めていくことができる気がしています。

簡単ではないことはよく分かっています。地域を横断し、物理的な問題について、親も心配していますし、大変なことです。私も協力させていただきたいと思っていますので、先ほど地域振興部長の力強いお言葉もありましたが、頑張ってくださいたいと思っています。よろしくお願いします。

●市長

ありがとうございます。

●片山委員

学校の部活動の地域移行というのは、全国的な話になっているということもありますけれども、大変な改革、事業であると思います。

子供たちが減ってきたり、教員の労働改革という前提はありますけれども、それとは別に、それぞれの地域がよりよくなるために、地域でのクラブ活動の内容が見えてくると、より地域の理解も得られるのではないかと思います。その中で場所の確保もあるが、やっぱり人材確保が難しいと思います。

私も昔、小学校のスポ少バレーの指導に携わっていたが、練習日が水・土・日曜日の3日だったが、時間の確保が大変でした。大変でありながらも子供たちと接してバレーを通して、人間形成というのは大げさになりますけども、やっぱりその種目を通して子供たちの成長をサポートしている。それは競技ですから勝つということも大変必要なところもあるし、目標にしてやっておりました。

大変ではあるけれども、やりがいも感じる。

そういう人材は市内にもたくさんおられると思います。先ほどもありましたけれども、市職員の中にもいろんなスポーツ・文化芸術活動をされている方もおられると思うので、携われる機会があれば、そういう方々を含めての地域のクラブ活動になっていけばと思います。

企業では、西京銀行はバドミントン、山口銀行はハンドボール、他にも先日栄光賞を受賞されていましたが水泳の個人メドレー、リレーなどで素晴らしい成績を残されていました。それも企業の中のクラブかもしれませんが、やっぱり地域のクラブに所属しながら、そういう場をもらって活躍する、子供たちが将来今回の WBC などを目指すことができる機会が新たに地域のクラブ活動で生まれるのではないかと。そういった期待を持ちながらやる。でも、そうでない子供たちも当然いるわけですよね。そんな子供たちもできる地域のスポーツ・文化活動も考えていかないといけない。二つの方向性が出てくるかもしれませんが、でも周南市はこういうふうにしていくんだっていう部分を出していけたら、素晴らしい地域のクラブ活動、文化スポーツの活動というのが生まれてくるんじゃないかなっていうふうに思います。

●市長

はい。ありがとうございました。吉本委員お願いします。

●吉本委員

先ほど教育長が言われた事務局の強化ということで、市役所各部局に協力をいただくことがとても大事だと思っていて、教育委員会と地域振興部だけではなく、各部局から1名選出し、様々な方面から意見を出していくことで自分事として捉えてもらう。自分事にならないと何も進まないと思う。

私は地域移行に大賛成です。周南市は全国に先駆けて先進事例としてできると素晴らしいなと思っています。その中で、企業や市の職員が指導者として名乗りを上げるときに、平日など仕事の都合で参加できなくなることがあると思います。ましてや副業を認めていない企業もまだまだあると思うので、周南市文化・スポーツ活動については、堂々と参加できるように、企業や市がバックアップする仕組みがあると、指導者の負担軽減につながるのではないかと考えています。体制を整え、ボランティアではなく、副業としてある程度の報酬が支給できる仕組みが大切だと思います。先日、岡寺委員とのお話の中で、ボランティアだけでは続かないし、ボランティアとしての機能しか果たせなくなってしまうため、しっかり副業としての仕組み作りがあると、地域全体で子供たちを育てていくことになると思います。このアンケートを見ると、取り組んでみたい種目が多岐にわたっており、市全体で取り組んでいく仕組みを全国に先駆けて構築できると素晴らしいなと思います。以上です。

●市長

はい。ありがとうございます。

お互いの意見交換でもよいですし、事務局から何かあればお願いします。

●松田委員

先ほど、部活という言い方をすると、イメージが固定化しているという話がありました。いただいた資料 4 ページの地図の地域と子供たちが活動しているところを是非アピールしていただきたいなと思います。このように子供たちの活動だけでなく、周りの方も生き生きと活動できるのではないかと思います。子供たちに焦点がいきますが、教える側が楽しむこともできるので、実際に地域で活動してくると、周りの関わっている人も元気になれたり、自分の魅力が発揮できたりするのではないかと思います。

協議会に参加すると、現実どうしても課題が目につくのは当然のことですが、そこで周りの思いもあります。このような姿になっていくことを分かってもらうことも大事なかなと思います。子供たちも育つ、地域も育つということで「私たちのまちを地域にスポーツ・文化部をつくりまします」というようなキャッチフレーズを作ったりすると先が少し動けるかなと思いました。

促進ということで、本日議題のテーマがありますが、これまでの3回の協議会にはいろいろな方が関わっておられて、十分に意見を出しながらやっていく中で、前向きな意見が出てくる会議は素敵だなと思いました。工夫や新しい意見を出すことに活力を見いだせるような気もします。課題は整理してあることに尽きると思うので、一つ一つ財源や人材を確保し、取り組む困難さはあるかもしれませんが、今の前向きな状況を持続していただきたい。協議会を伺っていて、大変さを感じながら前に進もうとされている委員の皆様のご意見に感心します。やはり出てくるのは市全体という言葉ですね。学校と言えば、学校教育課、市教育委員会だけ、今度は地域振興部が入ってこられて地域との関連、教育だから教育委員会ということではなく、子供たちや人を育てるという意味では、市役所においても全部局、市全体が関わっていく必要性をすごく感じます。

●岡寺委員

私も先ほどのイラストのイメージが良いと思う反面、いろいろな課題が浮かびあがってきます。部活動の今までのイメージが完全に変わる転換期ということを理解してもらうまでにはかなりの時間がかかるのではないかと、保護者と話をする中で感じています。

良い意見が出る裏で、課題をどうするのかという意見もあると思うので、解決策をいくつか出しながらかかれていくのだと思います。協議会の資料を拝見すると、言うまでもないほど課題がたくさん出されているので、これからなんだなと思いました。最終形を早い段階であらかじめ示していくと分かりやすいのではないかと思います。極端に言えば、部活動は学校から離れますということ

もっと明らかにして、スポーツクラブに子供たちを通わせるというイメージを皆さんに認知してもらうことが大事かなと感じています。

横断的になりますが、移動手段などは親が全て面倒を見ることになるのですか。

●学校教育課長

現時点で明確な回答は難しいですが、課題の一つにあがっています。まずは会場確保が市の課題であり、会場までの手段を補助することも一つの検討課題です。その一方で、現在クラブチームで活動をされている方については、ご家庭で負担されていますので、そのあたりをどのように整理していくかが今度の課題だと思っています。

●市長

よろしいですか。

●岡寺委員

私の立場で言うてはいけないかもしれないが、ばっさり言われた方が話が早いということもあると思います。いろいろな方の意見を聞いてしまうと結論が出なくなってしまうこともあるため、あらかじめ保護者負担と言われるとその中で解決策を見いだしていくこともあり得ると思います。

また、楽器はどこの学校のものを使用するか、施設を土日でも自由に使えるようにするかなど施設や設備などどのようにお考えですか。

●市長

大事なことですね。

●教育部長

これまで3回協議会を開いた中で、今言われたようなことも意見として出てきています。現時点で方向性をお示しできないことは事務局としてつらいところではありますが、国や県の方針が示されると、今後具体的に検討していくことができると思います。現時点で明確な回答はできませんが、課題としてしっかり認識はしております。

●市長

片山委員いかがですか。

●片山委員

協議会の課題に出ているとおりだと思います。いろんな立場から意見が出ると思うし、受け皿が大切になってくると思います。中山間地域の生徒の移動手

段も課題として出てくると思います。

新しいこと取り組むときに、方向性を早く示して、地域、企業、先生などに参加していただけるようにしていただきたいと思います。

是非全国に先駆けたスポーツクラブをみんなの力でつくっていただけたいと思います。

●松田委員

今吹奏樂の話が出ましたが、現在9校でやっています。9校を2校ずつ統合しても4箇所を確保すればいい。楽器も学校になく借りているところもある。そういう実態を見れば、知恵は出せると思うんですね。自分たちの一番いいところに持っていかうとするといろんな課題が出てくるが、もう少し広い目を見て、周南市全体の音楽活動を考えたときに、具体案のイメージやたたき台を作ることができると思います。一つ一つを具体化していくと必ず良い知恵が出そうな気がします。現在2校しかやっていない部活もやりたい子供がいると思うので、3箇所を増やすなど事務局にイメージを持っていただきたいと思います。

●教育長

いろいろとご意見をいただきましてありがとうございます。

学校部活動を地域に移行することの周知やPRについては、来年度の教育委員会の取組に含まれていますので、今後加速度的に進めていきたいと思っています。今いろいろとご意見をいただいた中で、やはり部活動のイメージが強いので、今までと違うことに取り組むときに、今まではこうだったという発想になりがちですが、どのようにすれば実現するのかという前向きな意見を皆さんからいただけるような進め方を我々としてもこれから頑張っていきたいと思っています。これがだめだからできないという考え方ではなく、こうしたらできるのではないかという考え方を是非皆さんにお願いできたらと思っていますので、委員の皆さんにも今後地域等でそのようなお話をしていただけるとありがたいと思っています。以上です。

●市長

ありがとうございました。他にはよろしいですか。

私からも一言言わせていただくと、先ほど吉本委員のお話の中に自分事としてという言葉があったと思います。人間はあなたの仕事ではないと言われると手放すのがとても早いですが、あなたの仕事ですと言われると忙しいからなど理由をつけて自分事として受け入れることが難しいと昔から言われている。この事業に関しては、PFIや大学のことなど世の中大きく変わりつつあるときですので、体育協会がスポーツ振興に専念できるようになるなどいろんな環境が動き始めているときなので、是非自分事としてみんなが考えていかなければ

この大きな変革は成し遂げられないのではないかと考えています。

これからも前向きな意見交換をお願いしたいと思います。皆様には貴重なご意見、いただきありがとうございました。いただいたご意見を踏まえ、子供たちの夢に寄り添いながら、子供たちの「生き抜く力」を、皆様方と一緒に育んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今後も、本市の教育の更なる充実・発展に向け、皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

それでは、事務局の方にお返しします。

●事務局（部長）

本日は、長時間にわたり、真摯なご協議をいただきありがとうございました。

それでは、以上をもちまして「令和4年度 周南市総合教育会議」を終了いたします。

本日は、お疲れ様でした。ありがとうございました。